

非常食推進機構が「白い小箱」650箱を納品

セントヨゼフ女子学園

災害用備蓄品を梱包した「白い小箱」の設置を推進する四日市市の一般社団法人日本非常食推進機構(JEFO、古谷賢治代表理事)は



9日(火)、津市半田のセントヨゼフ女子学園高等学校・中学校(斎藤翠校長)に「白い小箱」350箱を納品した。

バン、水、氷砂糖、ウッパ、トイッシュ、ようかん、簡易トイレ、レスキューシートなど。今回の納入と先月25日分とあわせて全生徒・職員分650箱となった。同校とホラニア交流を図っている障がい者支援施設の利用者がこれらの梱包作業をした。

利用者代表4人と運営する社会福祉法人職員3人が、同校職員と協力して「白い小箱」を保存倉庫へ収めた。3年間ここに設置し、その後再び入れ替える計画。入替時点で賞味期限の5年を超えるものはなく、残る有効期間(2年間)を生かして海外への食料支援に役立てる方針。

「白い小箱」は昨年11月の校長会で紹介して以来、各学校から問い合わせが相次ぎ、県内の高校、中学校を中心に納入開始。津市内では今年6月高田学苑へ納めた。今回の協定は県内で11校目となる。JEFOでは「低年齢から備蓄教育を進めるのが理想で、今後は小学校へも納入していきたい」としている。